

講義コード	D360100101	科目ナンバリング	136F202
講義名	博士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 対面授業		

授業概要

博士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

博士論文を完成できる

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間発表の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	論文の書き方を口頭により指導

授業方法

原則対面による質疑応答

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360100101	科目ナンバリング	136F201
講義名	修士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 対面授業		

授業概要

修士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

修士論文を完成できる

授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間報告の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	通年のまとめ、レポート

授業方法

対面による質疑応答、場合によりZoomによるオンライン面談

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと(一時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360200101	科目ナンバリング	136F101
講義名	フランス語学特殊研究(大学院)		
副題	フランス語の歴史的・地域的な広がり		
英文科目名	Studies in the French Language		
担当者名	松村 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 4時限 北1-201.通年 月曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語の歴史的、地域的な広がり多様性を理解していただくことを目的とします。そのために必要な道具を紹介し、それらを批判的に活用する練習をしていただきます。論文作成などのために知っておくべき基本的な研究倫理についても学んでいただきます。

到達目標

履修者各自の研究対象と関連させながら、フランス語の歴史的、地域的な広がり多様性を理解していただくことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	概説。
第2回	Le Petit Robert の特徴と問題点。
第3回	Le Petit Robert の批判的読解演習。
第4回	Le Trésor de la Langue française の特徴。
第5回	Le Trésor de la Langue française の問題点。
第6回	Le Trésor de la Langue française の批判的読解演習。
第7回	Dictionnaire des onomatopées の特徴と問題点。
第8回	Dictionnaire des onomatopées の批判的読解演習。
第9回	Dictionnaire des jurons の特徴と問題点。
第10回	Dictionnaire des jurons の批判的読解演習。
第11回	Dictionnaire des régionalismes de France の特徴と問題点。
第12回	Dictionnaire des régionalismes de France の批判的読解演習。
第13回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の特徴と問題点。
第14回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の批判的読解演習。
第15回	総括。
第16回	Le Bon Usage の特徴と問題点。
第17回	Le Bon Usage の批判的読解演習。
第18回	Littre の特徴と問題点。
第19回	Littre の批判的読解演習。
第20回	Huguet の特徴と問題点。
第21回	Huguet の批判的読解演習。
第22回	Dictionnaire du Moyen Français の特徴と問題点。
第23回	Dictionnaire du Moyen Français の批判的読解演習。
第24回	Godefroy の特徴と問題点。
第25回	Godefroy の批判的読解演習。
第26回	Tobler-Lommatzsch の特徴と問題点。
第27回	Tobler-Lommatzsch の批判的読解演習。
第28回	Anglo-Norman Dictionary の特徴と問題点。
第29回	Anglo-Norman Dictionary の批判的読解演習。
第30回	総括。

授業方法

講義、演習。遠隔授業の場合は Zoom を使用した同時配信型。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指示した箇所を読んでおくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80%(積極的に授業に参加すること。) レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生のレポートその他は授業内でコメントし、授業の内容に反映させる。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

授業時に指示する。

講義コード	M360202101	科目ナンバリング	136F103
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	文学批評理論研究		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 4時限 仏文院生室.通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

文学とは何か。文学テキストをどのように読めばいいのか。この問いに対して、特に20世紀以降、さまざまな批評家たちがそれぞれの文学理論を展開してきた。この授業では、主に文学批評理論テキストのアンソロジー『Littérature : 150 textes théoriques et critiques』を抜粋で読みながら、文学テキストへの多様なアプローチ方法を学んでいきたい。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、フランスにおける文学批評理論の諸相を理解する。それらの理論を援用しながら、文学テキストに対して単なる「感想」を述べるのではなく、自らも文学テキストを「分析」できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	使用するテキストについての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第15回	まとめ
第16回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(24)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(25)
第29回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(26)
第30回	総括

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Littérature : 150 textes théoriques et critiques, J. Vassevière, N. Toursel, Armand Colin, 4, 2015, 978-2200601331

Manuel d'analyse des textes, J. Vassevière et al., Armand Colin, 2, 2018, 978-2200619954

教科書コメント

プリントを配付する。

履修上の注意

履修者制限あり／第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	M360300101	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
副題	Production écrite		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	DERIBLE, Alberic Dany Ser		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 2時限 仏文院生室.通年 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Chaque séance de cours se déroulera en trois temps. Les étudiants mèneront tout d'abord une analyse des caractéristiques d'un genre particulier d'écrit et s'exerceront ensuite à manipuler les outils linguistiques qui lui sont spécifiques. Dans un troisième et dernier temps, ils produiront, avec l'aide de l'enseignant et sur le modèle du texte analysé en première partie, un exemple de cet écrit. Seront abordés au cours du semestre divers média tels que : la presse, la littérature et la correspondance.

到達目標

Se familiariser avec les différents genres d'écrit. Analyser les structures spécifiques à chaque type et s'y conformer lors de la production, tant au niveau de la forme (vocabulaire thématique et structures grammaticales) que dans le fond (les actes de parole exprimés). Les étudiants s'essaieront ainsi aux techniques de l'écriture journalistique, littéraire et de la correspondance.

授業内容

実施回	内容
第1回	L'ARTICLE DE PRESSE
第2回	Présentation des concepts opératoires pour l'analyse de texte
第3回	Le texte argumentatif
第4回	Les connecteurs logiques
第5回	La structure d'un article de presse
第6回	Le courrier des lecteurs
第7回	L'expression de l'opinion, le subjonctif
第8回	Un article pour le journal de l'université
第9回	Répondre à un éditorial, faire un commentaire sur un sujet d'actualité
第10回	Évaluation 1, Production écrite : donner son opinion sur un forum en ligne
第11回	LE ROMAN
第12回	Le synopsis
第13回	Les caractéristiques du roman
第14回	L'incipit
第15回	La concordance des temps
第16回	L'extrait de roman
第17回	Le passé simple
第18回	Le discours rapporté
第19回	Les règles de la ponctuation française
第20回	Évaluation 2 : présenter son roman préféré (synopsis et opinion)
第21回	LES AUTRES GENRES D'ECRIT (LE RECIT AUTOBIOGRAPHIQUE, LA LETTRE, LE MAIL)
第22回	Le souvenir
第23回	Le journal de bord, le récit d'aventure
第24回	L'imparfait et le passé composé
第25回	Les formules de politesse de début et de fin de correspondance
第26回	Le mail : accepter l'invitation d'un(e) ami(e), demander des informations sur une sortie
第27回	La requête indirecte, les faux amis (français-anglais)
第28回	Inviter, refuser une invitation, s'excuser ou se justifier
第29回	La correspondance officielle : formules consacrées
第30回	Évaluation 3 : donner son opinion sur une exposition dans un mail de remerciement d'invitation à un vernissage

授業方法

Les classes se dérouleront en présentiel. Après une première partie consacrée à l'analyse des différents types de texte, les étudiants seront guidés dans leur production personnelle d'un type particulier d'écrit.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation préalable n'est attendue des étudiants suivant ce cours, seules l'assiduité et la participation en classe sont obligatoires.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	90 %	3 évaluations par semestre de cours
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	Assiduité et participation en classe
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

L'évaluation portera principalement sur la production individuelle de trois types d'écrit : un texte argumentatif sur un sujet de société, le résumé et l'analyse littéraire et la correspondance officielle.

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

L'enseignant donnera un feed-back général sur les productions écrites des étudiants à chaque séance et donnera des conseils individuels selon les besoins et les problèmes de chacun.

教科書コメント

Aucun manuel ne sera utilisé dans cette classe. L'enseignant fournira pour chaque séance une fiche de travail idoine.

履修上の注意

履修者制限あり／第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	M360300102	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
副題	発話行為について考える		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 3時限 西1-315.通年 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の短い文章または論文を読むことで、書き言葉のフランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、フランス語の誤用、語用論的な視点から挨拶、依頼など日常を取り巻く言語の考察を深めたい。また女性の社会進出に伴う職業名詞の新たな女性形、男女の差別、差異をなくすために試みられている包括書法についても、折を見て取り上げたいと考えている。学部と大学院の乗り合わせの授業なので、参加者の興味やレベルに応じて臨機応変に対応する予定である。

到達目標

書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日常を取り巻く言語について(1)
第3回	日常を取り巻く言語について(2)
第4回	日常を取り巻く言語について(3)
第5回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第6回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第7回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第8回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第9回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第10回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括(1)
第15回	授業の総括(2)
第16回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(1)
第17回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(2)
第18回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第19回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第20回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第21回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第22回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第23回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第24回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(7)
第25回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括(1)
第30回	授業の総括(2)

授業方法

フランス語についての文章を読み、理解を深めながら議論していく演習方式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

教科書コメント

授業で講読するテキストは、授業中に指示する。

参考文献

Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970

Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008

Le français correct pour les nuls, First Grund, 2011

Le ministre est enceinte. ou la grande querelle de la féminisation des noms, B. Cerquiglini, Seuil, 2019

La féminisation de la langue en français et en allemand, D. Elmiger, Honoré Champion, 2008

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者制限あり／第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	M360301101	科目ナンバリング	136F105
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	フランス近代文学読解		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 5時限 仏文院生室.通年 月曜日 5時限 対面授業		

授業概要

フランス近現代作品の読解。テキストは履修者の関心に従い、相談の上決定する(候補はネルヴァル、ロートレアモン、ヴァレリー、メーテルランクなど)。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、さまざまな解釈の広がり把握します。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト読解
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認
第17回	テキスト読解
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業方法

原則対面による演習形式だが、場合によりZoom使用。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指名された箇所は、各版の注など読み込み、どのような解釈が可能か説明できるようにする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等)70%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。レポート30%。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表内容をまとめたもの(配布資料含む)をレポートとする。

教科書コメント

テキストはコピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360302101	科目ナンバリング	136F106
講義名	◆フランス演劇演習(学部:フランス語圏文化演習(舞台・映像))(大学院)		
副題	Aspects de la scene francophone		
英文科目名	Seminar in French Drama		
担当者名	DE VOS, Patrick		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 4時限 仏文院生室.通年 木曜日 4時限 対面授業		

授業概要

この授業では、フランス又はフランス語圏で1950年代以降の舞台芸術作品を扱う予定ですが、その枠でも古典的なレパートリーの戯曲を考察することにもつながる。演劇、又ダンスと言ったジャンルを問わず、可能な限り映像で確認できる各舞台作品に関して、その特徴を紹介し、歴史的、美学的背景を考慮しながら、作品の意義を考えていきます。通史的なアプローチをとらず、代表的とも言える作品の分析を、学生さん達と共に試みたいと思います。

到達目標

フランス文化圏における舞台芸術という大きな宇宙を垣間見ることから、文章だけではなく動画によって目と耳で確かめられる具体的な例を通じて、そのうちの幾つかの重要な傾向、問題、作家の仕事、フランス演劇の基礎的なレパートリーへの理解を深めます。また、断片でも原語で戯曲や批評文を読むこともあり、授業の主な使用言語になるフランス語の理解も深められると思います。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション。授業の内容や方法の説明。
第2回	共同体の歴史を語り直す太陽劇団の『1789』。
第3回	モリエールという国民的神話を捉え直す太陽劇団の『Molière』。
第4回	太陽劇団の『タルチュフ』の意義と舞台作りのメソッド。
第5回	モリエールの『Don Juan』を読む、その1。
第6回	モリエールの『Don Juan』を読む、その2。
第7回	名演出家、名優Louis Jouvetの『Don Juan』。
第8回	演出を語る演出。Brigitte Jaquesの『Elvire/Jouvet』。
第9回	『Elvire/Jouvet』、その2。
第10回	演技という、演劇を変革する核心。
第11回	モリエール以降の俳優と俳優論。
第12回	Diderotの『Paradoxe sur le comédien』の意義。
第13回	演出家Antoine Vitezによるモリエール。
第14回	演出家を追い払った劇団Tg Stanによるモリエール。
第15回	まとめ。
第16回	演技する身体を解体したニジンスキ。
第17回	ニジンスキの『牧神』。
第18回	ニジンスキによる『春の祭典』。
第19回	JarryからArtaudへ、演者の受難。
第20回	人形を目指すパフォーマー。Artaudの『Sur le théâtre balinais』。
第21回	パフォーマンスと観客が問う身体。Xavier Leroyの『Self portrait unfinished』。
第22回	パフォーマンスと観客が問う身体。Jérôme Belの場合。
第23回	人形に身体を奪われるパフォーマー。Giselle Vienneの『Jerk』。
第24回	ドキュメンタリ演劇のパーспекティヴ。
第25回	ドキュメンタリ演劇におけるMilo Rauの仕事。
第26回	ドキュメンタリ演劇におけるMilo Rauの仕事、その2。
第27回	いわゆるポストコロニアル状況の舞台。
第28回	学生による発表。
第29回	学生による発表。
第30回	まとめ。

授業計画コメント

履修者の関心やその人数によって以上のスケジュールで扱う項目の順番や内容などの多少の変更の可能性もあります。

授業方法

基本的に対面で、フランス語を主な使用語として授業を進めていきます。演習なので、学生さん達の積極的な参加が要求されます(口頭かメールで、毎回の内容について指摘、質問などを届けていただきます)。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

取り扱う作品によって、そのもとになる戯曲や関連のある批評、演劇論などを読んでいただき、順番で発表という形でその内容を授業で伝えてもらうことがあります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できますが、大学院生にはより高度な学修と成果が求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表やレポートに対するコメントをします。

参考文献

演劇学の教科書,クリスティアン・ピエ、クリストフ・トリオー,国書刊行会,2009

演劇学のキーワード,藤井慎太郎他,ペリかん社,2007

履修上の注意

演習のため、学生の積極的な参加が期待されます。

履修者制限あり/第1回目の授業に必ず出席すること